

特定非営利活動法人 鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会

2019 年度 通常総会および看取りセミナー

日 時 : 2019 年 5 月 11 日(土)13:00～17:00 (12 時 30 分受付)

場 所 : かがしま県民交流センター 3 階大研修室 I

開会あいさつ

議長選出・議事録署名人選出

総会

(13:00～14:00)

1. 第 1 号議案 平成 30 年度 事業報告
2. 第 2 号議案 平成 30 年度 収支会計報告および監査報告
3. 第 3 号議案 2019 年度 運営方針および事業計画(案)
4. 第 4 号議案 2019 年度 収支会計計画(案)

その他 連絡報告事項

(13:30 頃より)

- 1) 災害派遣福祉チームの派遣に関する協定について
鹿児島県くらし福祉部社会福祉課 課長様より
- 2) 雇用管理推進事業について
介護労働安定センター 鹿児島支部 支部長様より
- 3) 元気高齢者等介護職場インターンシップ(職場体験)について
鹿児島県社会福祉協議会 ボランティアセンター 推進員様より
- 4) ホームページに掲載している主な内容
①当協議会の事業(研修等)のご案内 ②鹿児島県や他団体からの研修等のお知らせ
③リンク(鹿児島地方気象台 土砂災害警戒区域マップ 河川砂防情報システムなど)
④公開資料(認知症サポーター子ども用資料 看取りケア介護計画など) ⑤その他
- 5) その他

～14:00 セミナー受付開始

休憩 15 分間 ～

看取りセミナー

(14:15～17:00)

テーマ「介護専門職としての成長～看取りケアにおける連携から～」

1. 事例発表「看取りケアを体験した介護職員の成長」 (14:15～14:45)
発表者：始良伊佐支部 グループホームよいやんせ 計画作成担当者 小川やよい氏
2. 講演「尊厳ある看取りケア～介護専門職と医療との連携～」 (14:50～16:20)
講師：鹿児島大学医学部 島嶼・地域ナース育成センター 特任講師 金子美千代先生
3. まとめ「グループホームが看取りケアに一步踏み出すための対策」 (～16:55)

閉会 ※アンケート記入し、会場前後の回収ボックスまでお願いいたします

平成 30 年度の評価と 2019 年度の方針（案）

平成 30 年度 評価

平成 30 年度の運営方針

1. 接遇や虐待防止に関する実践的な理解を深めるための支援
2. 介護職員が医療連携に苦手意識をなくすような支援
3. 国の施策の動向等をふまえ自事業所のあり方を客観的に考える機会を提供
4. 多様な働き方、コミュニケーションツールなどの共有
5. 災害時の支援対策(基金)の設立検討

平成 30 年度は人材不足、多様化するニーズに対応するための支援として、①外国人介護技能実習生や②事業戦略についての講義、③柔軟な働き方で新たな職場づくりをするセミナー、④意思決定支援に関する事例発表と検討会を行いました。また全国で自然災害が頻発している現状をふまえ、災害時の体制作りについても検討しました。さらに離島等の学びの機会の公平性を保つための試みとして、SNSを活用した研修の公開配信(会員のみ)を実施しました。看取りセミナーを延期したが、多忙な中会員や理事が力を合わせて意図的な事業運営に尽力できたと考えます。

2019 年度 方針

今後さらに介護業界の効率化、大規模化という流れが加速すると考えられます。人員不足で事業所閉鎖等も相次ぐ中、柔軟な働き方の提案、職場内研修の徹底等により、働きやすくやりがいのあるケアのできる職場づくりが各事業所における喫緊の課題となっています。また多死時代に突入し、看取りケアに踏み出す事業所も増えています。さらに風水害や地震による災害が全国的に増加する中、現実的な想定をした備えが必要となっています。このような社会情勢、各事業所の課題をふまえ、2019 年度の当連絡協議会の方針を、下記のとおりとします。

1. 看取りケアについて前向きに興味をもち、事業所全体が気持ちを合わせて取り組める支援
2. 学ぶ機会の公平性を保ち、離島や僻地の会員が職場内研修を充実できる支援
3. 各会員の事業所で取り組んでいる「生産性向上のための働き方改革」を共有し、活かせる支援
4. 各会員が自然災害を現実的に想定し、自己チェックや備え、連携につなげられる支援

第1号議案

平成30年度事業報告

日程		平成30年度	参加者数	場所
5月	12日	総会 研修会 「2040年を見据えて考える介護業界の人材確保」 ①外国人介護技能実習生についての正しい知識 講師:アジアアグリ協同組合鹿児島支部 支部長 塚本信也様 ②人材確保を含めた事業戦略を学ぶ～ポスト2040年に向けて～ 講師:らしさサポート代表 山下美貴子様	58名	日置市・中央公民館
7月	6日	第2回理事会 ①情報共有ツール FB等の検討 ②災害時支援対策基金の規定検討 ③事例検討会についての準備	7名	鹿児島市・鹿児島県青少年会館
8月	9日	虐待防止・意思決定支援に関する事例検討会 ①認知症高齢者の意思決定支援に関する事例検討の方法を学ぶ ②虐待・身体拘束に関する葛藤について事例検討の方法を学ぶ	34名 (うち非会員15名)	鹿児島市・よかセンター
10月	24日	第3回理事会 ①多様な働き方、コミュニケーション研修の準備 ②離島・僻地の事業所への還元方法についての検討 ③災害時の福祉支援体制の整備について報告	7名	鹿児島市・ガスト城山店
12月	19日	第4回理事会 ①看取りセミナー準備 ②WEB研修の検討 ③離島・僻地の事業所への還元方法についての検討 ④災害時の福祉支援体制の整備について報告	7名	鹿児島市・ガスト城山店
12月	19日	多様な人材に対応できる職場とは ～柔軟な働き方やコミュニケーションツールを知り、新たな価値観で職場づくりを～ 講師:キャリアコンサルタント 大学講師 池元正美先生	23名 (うち非会員1名)	鹿児島市・NCサンプラザ
3月	20日	第5回理事会 今年度の評価と来年度の計画(総会準備)	7名	鹿児島市・かごしま県民交流センター

平成30年度 雇用管理推進事業(鹿児島県労働局主催)委員として参加

平成30年度 鹿児島県水防協議会委員として参加

平成30年度 北薩地域保健医療圏地域医療構想調整会議委員として参加

鹿児島県災害福祉広域支援ネットワーク協議会委員として参加

平成30年度 会計報告書
2018年4月1日～2019年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額			内 訳
	今年度予算	今年度実績	差額	
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	1,424,000	1,200,000	△ 224,000	
2. その他収益				
雑収入	10,000	9,000	△ 1,000	研修会非会員参加費
受取利息	100	14	△ 86	
経常収益計	1,434,100	1,209,014	△ 225,086	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
支払報酬	500,000	450,548	△ 49,452	研修会講師謝礼、ホームページ管理委託料
人件費計	500,000	450,548	△ 49,452	
(2) その他経費				
旅費交通費	200,000	84,624	△ 115,376	研修会講師交通費、理事会・委員会交通費
印刷製本費	200,000	97,666	△ 102,334	研修会、理事会・委員会資料印刷製本費
賃貸料	100,000	81,218	△ 18,782	会場等使用料
通信費	20,000	7,318	△ 12,682	サーバー管理費等
支払手数料	20,000	14,088	△ 5,912	振込手数料
消耗品費	5,000	108	△ 4,892	
予備費	20,000	0	△ 20,000	
会議費	20,000	4,000	△ 16,000	
雑損	0	0	0	
その他経費計	585,000	289,022	△ 20,000	
事業費計	1,085,000	739,570	△ 69,452	
2. 管理費				
(1) 人件費				
支払報酬	84,000	84,000	0	ホームページ管理委託料
人件費計	84,000	84,000	0	
(2) その他経費				
旅費交通費		21,151	21,151	研修会講師交通費、理事会・委員会交通費
賃貸料		552	552	会場等使用料
支払手数料	2,000	864	△ 1,136	振込手数料
その他経費計	2,000	22,567	20,567	
管理費計	86,000	106,567	20,567	
経常費用計	1,171,000	846,137	△ 324,863	
当期正味財産増減額	263,100	362,877	99,777	
前期繰越正味財産額	2,015,381	2,015,381	0	
次期繰越正味財産額	2,278,481	2,378,258	99,777	

監査報告書

以上の収支会計報告に基づき、現金出納帳、貯金通帳、領収証等の関係帳簿を監査した結果、何ら違算を認めなかったことを報告いたします。

令和 元 年 5 月 8 日

監事 署名・捺印

小川 幸也



令和 元 年 5 月 9 日

監事 署名・捺印

堂脇 聖子



第3号議案

2019年度事業計画

日程		事業計画の内容	場所
5月	12日	第1回理事会 ①総会準備 ②理事会・事業の具体的な日程調整	かごしま 県民交流 センター
5月	12日	総会及び連絡事項 ①災害派遣福祉チームの派遣に関する協定について ②雇用管理推進事業について 看取りセミナー 「介護専門職としての成長～看取りケアにおける連携から～」 ①事例発表 ②講演「尊厳ある看取りケア～介護専門職と医療との連携～」 講師：鹿児島大学医学部 島嶼・地域ナース育成センター 金子美千代先生 ③グループワーク「看取りケアに一步踏み出すための対策」	かごしま 県民交流 センター
6月	下旬	第2回理事会 ①セミナー「尊厳」準備 ②社内研修WEB配信の準備 テーマ案：身体拘束廃止・虐待防止、認知症ケア、看取りケア、 身体観察の方法、アサーティブコミュニケーション（働きやすい職場）	鹿児島
8月	23日	第3回理事会 ①セミナー「尊厳」準備 ②みんなで語ろう「となりのグループホームはどうしてる？」 ～ 介護における生産性向上の取組みを共有しよう ～準備 ③社内研修WEB配信の準備	鹿児島
8月	23日	セミナー「尊厳」について 講師：認知症研究・研修東京センター 副センター長 佐藤信人先生 グループワーク	鹿児島
9月	7日	みんなで語ろう「となりのグループホームはどうしてる？」 ～ 介護における生産性向上の取組みを共有しよう ～（案） ①事例「職場環境のお片付け術」 ②事例「既存の施設機能を活かした認知症対応型デイサービス」 ③事例「三交代勤務で子育て世代も働きやすい環境づくり」 ④事例「記録や事務仕事の効率化」 ⑤ボランティアとの協働による効率化 まとめ：うちのグループホーム自慢大会	鹿児島
11月	下旬	第4回理事会 ①研修会評価 ②社内研修WEB配信の準備（2019年11月～2020年2月撮影、配信）	鹿児島
3月	中旬	第5回理事会 ①今年度の評価と来年度の計画（総会準備）	鹿児島

第3号議案 2019年度 事業計画 ②

1. 支部の現状と再編

支部名	所属する地域	現状と再編
鹿児島熊毛	鹿児島市 熊毛郡	
始良	始良市 霧島市 湧水町 伊佐市	
いずみ川薩	出水市 阿久根市 さつま町 薩摩川内市 いちき串木野市	2019年度より いちき串木野加入
さつま半島	指宿市 南九州市 枕崎市 南さつま市	
大島	奄美大島 徳之島 沖永良部島 与論島 喜界島	支部活動がないので 県の会費のみ納入

会員がいない地域 : 獅子島 長島町 日置市 大隅半島の各市町村

2. 県本部、各支部が主催する研修のWEB配信

- 1) 条件 : 講師が配信について了承してもらった場合
- 2) 方法 : 研修を録画して事務局がHP会員専用のページにアップ
- 3) 配信を受ける方法 : HP会員専用のページ（パスコードあり）からダウンロード
- 4) 約束 : 会員のみの視聴とする

3. 「社内研修支援」WEB配信

- 1) 目的 : 人員不足によって協議会主催研修に参加できない会員が多いので、各会員の事業所でケア質向上のための社内研修をWEB配信によって支援する

2) 内容（計画）

研修内容	予定講師	所要時間	対象	配信時期
①認知症ケア	中津詩穂	60分	介護職員他	
②コミュニケーションの基本	中津詩穂	40分	全職員	
③感染予防対策	柳川育美	40分	介護職員他	
④虐待身体拘束防止	古城順子	40分	介護職員他	
⑤職場づくり・面接	有馬慎一	60分	中堅リーダー管理者	
⑥看取りケア	古城順子	60分	看護介護職員他	

- 3) 方法 : 「社内研修支援」の予定講師を中心に資料と内容を作成し、録画でき次第、HP会員専用のページにアップ
- 4) 配信を受ける方法 : 社内研修の会場でスクリーンやテレビ等の媒体を設置し、配信を受けながら受講する
- 5) 受講の留意点 : グループワークや演習、事後課題等もあるので、事業所の担当者は事前に配信内容を確認して効果的に受講できるように準備する
- 6) 約束 : 会員のみの視聴とする

※ 資料、内容の検討に時間がかかると予測されるので、2019年度の配信時期は下半期となる予定です。

研修等年間スケジュール（仮）

日程	支部		会場
6月1日	鹿児島熊毛	総会 講演「働き方改革について」	鹿児島市
6月8日	いずみ川薩	プロコーチが伝えたい「関係づくり(仮)」 医学博士 プロコーチ 岩崎秀一先生	薩摩川内市 国際交流 センター
6月15日	始良伊佐	定期総会・研修会	溝辺みそめ館
7月	鹿児島熊毛	ユマニチュード	鹿児島市
8月20日	いずみ川薩	生きにくい世の中だから理解し合える職場 にしよう(仮) 池元正美先生	薩摩川内市 川内文化ホール 第5会議室
8月23or25日	県	セミナー「尊厳」について 講師：認知症研究・研修東京センター 副センター長 佐藤信人先生 グループワーク	鹿児島市
8月27日	いずみ川薩	生きにくい世の中だから理解し合える職場 にしよう(仮) 池元正美先生	阿久根市民会館
9月7日	県	みんなで語ろう 「となりのグループホーム はどうしてる？」 ～ 介護における生産性向上の取組みを共 有しよう ～ (案) ①事例「職場環境のお片付け術」 ②事例「既存の施設機能を活かした認知症 対応型デイサービス」 ③事例「三交代勤務で子育て世代も働きや すい環境づくり」 ④事例「記録や事務仕事の効率化」 ⑤ボランティアとの協働による効率化 まとめ：うちのグループホーム自慢大会	鹿児島市
10月	始良伊佐	認知症セミナー2019	未定
10月17日	いずみ川薩	接遇と心 接遇信愛代表 白坂真由美先生	薩摩川内市 国際交流セ ンター
10月26日	鹿児島熊毛	両親をGHに預ける家族の思いとエンディ ングノートの活用	鹿児島市
11月14日	いずみ川薩	接遇と心 接遇信愛代表 白坂真由美先生	阿久根市民会館
11月	始良伊佐	事業所見学ツアー	
12月6or9日	鹿児島熊毛	感情労働とメンタルヘルス (高橋教授)	鹿児島市
2月	鹿児島支部	腰痛予防と福祉用具の活用	鹿児島市

第4号議案

平成31年度 収支予算(案)

2019年4月1日～2020年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額			内 訳
	今年度予算	今年度実績	差額	
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	1,200,000	1,200,000	0	
2. その他収益				
雑収入	9,000	10,000	1,000	研修会非会員参加費
受取利息	14	100	86	
経常収益計	1,209,014	1,210,100	1,086	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
支払報酬	450,548	750,000	299,452	研修会講師謝礼、ホームページ管理委託料、WEB研修費用
人件費計	450,548	750,000	299,452	
(2) その他経費				
旅費交通費	84,624	150,000	65,376	研修会講師交通費、理事会・委員会交通費
印刷製本費	97,666	200,000	102,334	研修会、理事会・委員会資料印刷製本費
賃貸料	81,218	100,000	18,782	会場等使用料
通信費	7,318	20,000	12,682	サーバー管理費等
支払手数料	14,088	20,000	5,912	振込手数料
消耗品費	108	5,000	4,892	
予備費	0	20,000	20,000	
会議費	4,000	20,000	16,000	
その他経費計	289,022	535,000	20,000	
事業費計	739,570	1,285,000	319,452	
2. 管理費				
(1) 人件費				
支払報酬	84,000	84,000	0	ホームページ管理委託料
人件費計	84,000	84,000	0	
(2) その他経費				
旅費交通費	21,151		△ 21,151	研修会講師交通費、理事会・委員会交通費
賃貸料	552		△ 552	会場等使用料
支払手数料	864	2,000	1,136	振込手数料
その他経費計	864	2,000	1,136	
管理費計	84,864	86,000	1,136	
経常費用計	824,434	1,371,000	546,566	
当期正味財産増減額	384,580	△ 160,900	△ 545,480	
前期繰越正味財産額	2,015,381	2,015,381	0	
次期繰越正味財産額	2,399,961	1,854,481	△ 545,480	

災害派遣福祉チームについて

1 災害派遣福祉チームとは

大規模災害時において、高齢者や障害者、子どもなど災害時要配慮者の福祉ニーズに的確に対応し、避難生活中における生活機能の低下等の防止を図るため、一般避難所で災害時要配慮者に対する福祉支援を行う。

2 災害派遣福祉チームの組成方法、活動内容について

(1) 組成方法

ア チームの人員構成

- ・ 1チーム当たり 4～6名
- ・ 職種・・・社会福祉士，介護福祉士，精神保健福祉士，介護支援専門員，保育士，ホームヘルパーなど

※ チームに女性を1名以上配置する。

イ チームの組成数

県地域振興局・支庁の所管区域ごとに2チーム程度（合計14チーム）

(2) 活動内容

- ・ 福祉避難所への誘導
- ・ 災害時要配慮者へのアセスメント
- ・ 日常生活上の支援（食事・入浴介助等）
- ・ 相談対応
- ・ 避難所内の環境整備
- ・ 他職種（D－M A T等）との連携
- ・ 被災地域の社会福祉施設等との連携 など

(3) 活動期間

1チームの被災地での滞在期間は，1週間程度

3 これまでの取組と今後のスケジュール

平成30年 8 月	第1回協議会を開催（13団体により構成）
11月	第2回協議会を開催（協定(案)について議論）
平成31年 3月～6月	団体等と個別に意見交換
6月～	団体と協定を締結
7月～	チーム員の募集
10月～	チーム員に対する研修等を実施



「災害派遣福祉チームリーダー養成等研修事業」の実施

【要求要旨】

- 近年、東日本大震災や熊本地震、台風による土砂災害など、多くの自然災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしている。
- これらの災害を受け、高齢者や障害者、子ども等の災害時要配慮者は、避難所等において、長期間の避難生活を余儀なくされ、必要な支援が行われない結果、生活機能の低下等の二次被害が生じている場合もあることから、こうした二次被害防止のため、避難生活の早期の段階から、その福祉ニーズに対応した必要な支援を行うことが求められている。
- こうした中、厚生労働省においては、本年5月に「災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン」を策定し、全国の都道府県レベルで、災害時要配慮者に対する福祉的支援を行う「災害派遣福祉チーム」を組成し、避難所等へこれを派遣する体制の整備を推進しているところ。（同ガイドラインにおいては、平時の取組として、研修・訓練実施の重要性を規定している。）
- こうした状況を踏まえ、全国で体制整備が進む「災害派遣福祉チーム」のチーム員の資質の均質化を図るとともに、全国のリーダー層の交流、情報交換を促進する観点から、平成31年度概算要求においては、「災害派遣福祉チームリーダー養成等研修」を開催する。

【事業内容】

- 各都道府県が組成する「災害派遣福祉チーム」のチーム員（各都道府県5名程度）を対象に、全国を3ブロックに分け、次のようなカリキュラムにより、「災害派遣福祉チームリーダー養成等研修」を開催する。

1日目		2日目	
災害時の福祉支援の必要性について（講義）	1h	各都道府県の取組事例の発表・講評	3h
災害時要配慮者の特性について（講義）	1h	意見交換	1h
災害派遣福祉チーム員としての心構えについて（講義）	1h		
災害派遣福祉チームの役割・活動内容について（講義）	2h		
災害派遣福祉チームの活動シミュレーション（演習）	2h		

【平成31年度概算要求額】

（目）保健福祉調査委託費 **5,095千円** ← 平成30年度予算額：0千円

西日本豪雨災害における 災害派遣福祉チームの活動について

岡山県提供資料

(岡山県社会福祉法人経営者協議会事務局)

1

災害派遣福祉チームとは(避難所で配布しているチラシより)

お困りのことがありましたら、私たちにお声かけください。
きいろのジャンパー(ビブス)を着ています。



〔チーム紹介〕

私たちは、福祉の資格をもった関係者が集まった支援チームです。

普段は、特別養護老人ホームや障害者支援施設、保育園等の社会福祉施設や病院で働いており、施設利用者の介助や困りごとの相談に応じています。

社会福祉士や介護福祉士、介護支援専門員(ケアマネジャー)などの資格を持っていますので、体調のすぐれない方やご年配の方、こんなことをお手伝いしてほしいといった困りごとがあればご相談ください。

保健師のチームやDMAT(医療)チーム、JRAT(リハビリ)チームなどと連携しながら、支援していきますので、困ってそうな方や体調のすぐれない方を見かけたら、お知らせください。お話をお聞きするためにお伺いもさせていただきます。

Point

2



災害派遣福祉チームとは



〔活動内容〕

- ・高齢の方や障がいのある方、配慮を必要とする方への生活支援、環境整備
- ・医療救護班(DMAT)、保健活動班(保健師)、JRAT(リハビリ)などの専門職チームと連携した診察(診療)の同行やアセスメント調査の実施、見守り・声かけ
- ・社会福祉施設への受入調整や相談などの調整(コーディネート)
- ・なんでも相談コーナーの開設による被災者ニーズの把握と相談対応
- ・つどいの場(ふれあいサロン活動)の提供による居場所や仲間づくり、交流の場など

〔設置場所〕

倉敷市真備町内の避難人数の多い
岡田小学校・菌小学校・二万小学校の3ヶ所

〔主な活動内容〕

- 岡田小学校(7/10~)
アセスメント(ラウンド)・要配慮者支援・環境整備
なんでも相談・つどいの場(ふれあいサロン)
- 菌 小学校(7/16~)
アセスメント(ラウンド)・要配慮者支援・環境整備
なんでも相談・つどいの場(ふれあいサロン)
- 二万小学校(7/18~)=なんでも相談・環境整備

3



災害派遣福祉チームとは



〔名称〕

災害派遣福祉チーム DWAT=Disaster Welfare Assistance Team
DCAT=Disaster Care Assistance Team

〔岡山県における取組状況〕

平成29年度

- 5月、県社協を事務局に、経営協・老協会員に呼びかけ、災害派遣福祉チーム員を推薦募集。
- 12月、推薦者(117名)を対象に、災害派遣福祉チーム員養成研修を開催。
- 1月、岡山県主催の災害関係の研修会において、災害派遣福祉チームの組成状況を報告。
- 3月、岡山県と災害派遣福祉チームの派遣要請に関する考え方を協議。
全国経営協のモデル事業の受託により、「岡山DWAT」のビブスを作成。

平成30年度

- 5月、厚労省社援局長「災害時の福祉支援体制の整備」が発出。
- 6月、県内6種別協・6職能団体による災害派遣福祉チーム推進会議を開催。

Point

4



西日本豪雨災害における岡山県の被災状況



・岡山県では河川の氾濫や堤防の決壊による浸水被害や土砂災害が相次いで発生。全半壊・浸水家屋数は少なくとも14,000棟にのぼり、県内の風水害による被害としては戦後最悪。

・倉敷市真備町では7日朝までに小田川と支流の高馬川などの堤防が決壊し、広範囲が冠水。真備町だけで51人の死亡が確認、ほとんどが水死とみられる。

・土木学会の調査によると、浸水の深さは南北1km・東西3.5kmの範囲で5メートルを超え、最大で5.4メートルに達したとみられる。浸水範囲は真備町の4分の1にあたる1,200ヘクタールに及んだ。

・真備町における堤防の決壊箇所は小田川で2箇所、支流の川で6箇所が確認され、小田川では他にも6箇所で法面の崩落が確認されている。



5



西日本豪雨災害における支援経緯(時系列)



〔7月6日(金)〕

- 7月6日(金)22時00分 - 真備町全域に避難勧告
- 7月6日(金)22時40分 - 倉敷市に大雨特別警報
- 7月6日(金)23時45分 - 小田川南側に避難指示(緊急)
- 7月7日(土) 0時47分 - 国土交通省が小田川右岸で堤防から水があふれて
いるという緊急速報メールを配信

- 7月7日(土) 1時30分 - 小田川北側に避難指示(緊急)
- 7月7日(土) 1時34分 - 国土交通省が高馬川で堤防の決壊を確認
- 7月7日(土) 6時52分 - 国土交通省が小田川で堤防の決壊を確認

〔7月7日(土)〕

倉敷市真備町は浸水により近づけず。消防・自衛隊による人命救助が展開。
県内のJR等公共交通機関も不通。

〔7月8日(日)〕

総社市のさくばらホームが床上浸水により施設機能不能、利用者100名を老施協・経営協会会員法人にて1次避難を調整、9日(月)までで移送終了。

6



西日本豪雨災害における支援経緯(緊急期)



[7月9日(月)]／DWAT第1回緊急会議

- ・経営協財前会長、福原副会長(兼:老施協副会長)、山口副会長、障施協五代儀会長、クムレ小橋氏、県社協事務局にて緊急会議を開催。
- ⇒最も大きい避難所である岡田小学校に、被災者の情報収集を目的に、DWAT先遣隊(5名)の派遣を決定。
- ⇒8月13日(第9クール)までのDWAT派遣調整を開始(種別協・職能団体)。
- ⇒現地コーディネーター(現地Co)として、(社福)クムレ小橋氏の派遣を決定。

Point



7



西日本豪雨災害における支援経緯(緊急期)



[7月10日(火)]／先遣隊5名

- ・DWAT先遣隊派遣について、岡山県から倉敷市を通じて伝達したが、岡田小学校には伝わらず。
- ・先遣隊の活動支援として、京都DWATの華頂短大武田教授、富士通総研名取氏が現地入り(7/10)。
- ・現地Coが岡田小学校校長並びに岡田小学校避難所責任者の倉敷市派遣職員へ接触、校長の前向きな受入意向と、たまたま顔なじみの倉敷市職員がいたため、比較的スムーズに医療・保健分野が常駐している職員室に入ることができた。

- ・早速、医療チーム(DMAT)の診察に同行。
- ・診察後の要配慮者に対する継続的なフォローを要請される。
- ・保健師チームとラウンドを実施。
- ・避難所内における要配慮者のリスト化に取り組む。
- ・当初は先遣隊の目的は情報収集だったが、福祉分野の活動が求められていることが分かったため、医療チーム(DMAT)・保健師チームと連携した具体的な活動を展開する。

Point



8



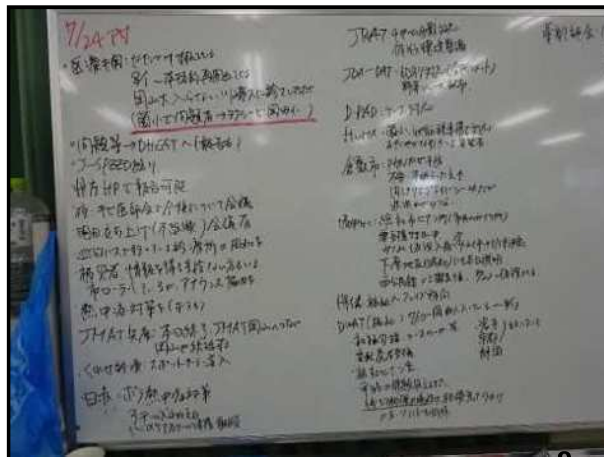
西日本豪雨災害における支援経緯(緊急期)



[7月11日(水)]／先遣隊5名

・倉敷市保健所で開催されていた医療・保健関係者が集う「倉敷地域災害保健復興連絡会議(KuraDRO)」にて、医療チーム(DMAT)が岡山DWATの取組を報告、福祉分野の関わり的重要性を認識いただき、倉敷市保健所より本会議への参画要請がある。これにより、避難所における医療・保健・福祉の連携した支援体制が構築される。 **Point**

・先遣隊・第1クルールの活動支援として、岩手県社協(岩手DWAT)加藤氏(7/20)・千葉氏(7/17)が現地入り。



西日本豪雨災害における支援経緯(緊急期)



[7月12日(木)]／先遣隊5名⇒第1クルール6名+Co

・岡田小学校において、岡山DWAT(第1クルール)が現地入り。

・倉敷市保健所で開催されていた医療・保健関係者が集う「倉敷地域災害保健復興連絡会議(KuraDRO)」で、県社協よりDWATの活動を全体会において報告、岡山DWATは1チームのみ岡田小学校へ、他県DWATの派遣については倉敷市・岡山県を通じて派遣要請が必要の旨を説明。



10



岡山DWATの1日の流れ

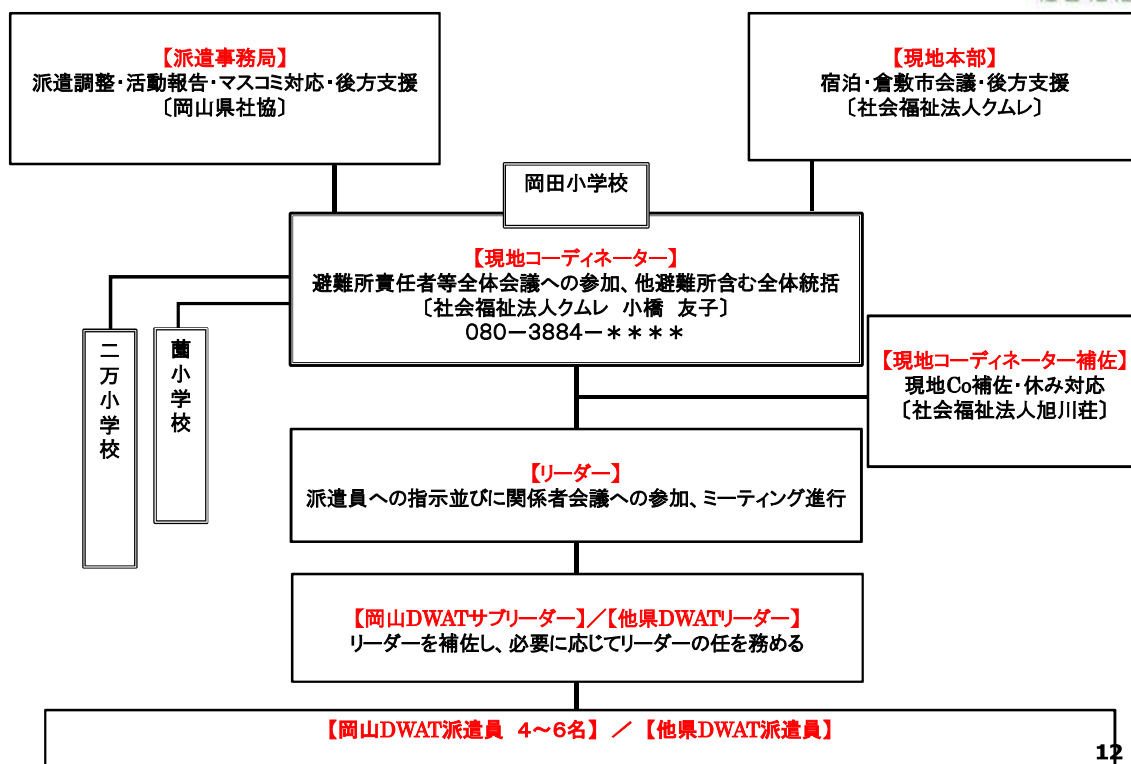


- 6:45 クムレ「栗の家」出発 7:20 小学校到着
- 8:00 全体ミーティング(関係者全員)
- 8:30 福祉ミーティング(保健師・JRAT・看護師等)
・本日用べきことに対する役割分担等、複数チームに分かれ、
ラウンド＆環境面等へのアプローチ対策(医療・保健分野との連携)
- 9:00 なんでも相談(体育館)での相談開始(ローテーション～16:00)
・ラウンド(アセスメント)開始
- 10:30 DWATミーティング(コーディネーター・リーダー・サブ)
- 11:30 軽体操教室受付補助(体操教室終了後、集いの場として活用)
- 12:30 休憩(1時間程度:ローテーション)
- 13:30 福祉医療ミーティング(保健師・JRAT・巡回看護師等)
・午前の振り返り・調査、医療ミーティングや全体ミーティングに向けた整理
- 15:30 全体ミーティング(倉敷市・保健師・JRAT・ピースボート等)
- 16:10 DWATミーティング(DWAT全員)
・相談コーナー件数の報告・明日行うべき事項に関する相談
- 16:30 記録
- 17:00 終了

11



岡山DWATの現地体制図



12



岡山DWATの主な活動



〔アセスメント・ラウンド〕※医療チーム・保健師

・医療救護班(DMAT)や保健師チーム、JRAT(リハビリ)などの専門職チームと連携し、避難所内の要配慮者を中心に、心身の状態の確認や生活環境の確認、声かけを行う活動。

〔要配慮者支援〕※保健師・JRAT

・アセスメントを通して見えてきた問題や福祉的な支援が必要な方々に対して、例えば、福祉施設利用に向けて福祉関係機関やケアマネへの連絡調整や、虐待案件の通報など必要な支援を行う活動。仮設住宅への転居や避難所の閉鎖の段階では、積極的に地元の関係機関に引き継いでいく活動。

〔環境整備〕※ピ・サポート・JRAT・避難所運営班

・避難所内の公衆衛生の向上をはかるためのトイレやごみ箱等の定期的な清掃活動や下駄箱やスロープ設置提案等の段差解消など福祉的な視点に立った環境整備にむけた活動。



13



岡山DWATの主な活動



〔なんでも相談コーナー〕

・被災者の置かれた状況は段階に応じて変わっていくため、いつでもなんでも相談できるブースを設け、傾聴の姿勢で被災者の相談支援にかかわる活動。

〔つどいの場(ふれあいサロン活動)〕※JRAT・AMD

・介護予防や仲間作り・交流の場として、軽体操や茶話会を行う活動。



〔DWATメンバーの5日間の活動から見てきたこと〕

・1日目は前クールからの引継ぎを受けて不安感いっぱいな状況。2日目～4日目と活動していく中で、普段の業務とは異なる環境・状況のなかで責任感・分野を超えたコミュニティソーシャルワーカー的な活動を展開、5日目には保健師等関係者や被災者からも声をかけていただける信頼関係を構築されている。

14



西日本豪雨災害における支援経緯(応急期①)



[7月15日(日)]／第1クール6名+Co...ニーズに基づいたDWAT活動の拡大

・岡田小学校のほかにも、菌小学校並びに二万小学校の避難所状況を把握、2つの小学校にも福祉的な支援の必要性があることを確認、県外からのDWAT応援チームを要請する方向で調整を開始。

・倉敷市より岡山県に対して県外DWATの派遣要請があり、京都・岩手DWATに対して派遣要請が行われる。県外DWATは京都6チーム、岩手2チーム、静岡3チーム、群馬2チーム、青森2チームが応援に入る。

・岡田小学校でのDWATの主な活動

Point

7月10日(火)～医療チーム・保健師と連携しアセスメント(ラウンド)、環境整備

7月13日(金)～体育館になんでも相談コーナーを開設

7月18日(水)～AMDAやJRATと連携し、軽体操(つどいの場)を実施

[7月18日(水)]

・岡山DWAT2名が二万小学校において活動開始(なんでも相談、環境整備)。

[7月19日(木)]

・岩手DWAT第1クール4名が菌小学校において活動開始。

[7月20日(金)]

・京都DWAT第1クール4名が岡田小学校において活動開始。

15



西日本豪雨災害における支援経緯(応急期①)



[7月20日(金)]／DWAT第2回緊急会議

・県社協において、DWAT第2回緊急会議を開催、今までのDWAT活動の報告を行い、活動期間を8月13日(第9クール)から9月2日(第13クール)まで延長することを確認する。

・DWAT第2期募集(第9～13クール)を開始。

[7月23日(月)]／発災3週目...地元医療機関の再開に伴い、県内外の医療チーム撤退

・緊急期を過ぎたため、全国から派遣されていた医療チーム(DMAT・JMAT・AMAT)が撤収、地元医師会や病院協会へ活動の引継ぎが進む。

・DWATとしての主な連携先は、医療チームから、保健師チーム・JRAT等の見守りやリハビリ関係の団体に移行。

・倉敷市の高齢者支援センターや保健師チームの活動が本格化、避難所の避難者と在宅の避難者のニーズ把握(アセスメント)が始まる。

・避難所内におけるDWAT活動がある程度ルーティーン化しつつある現状を踏まえ、現地Coと協議し、現在のDWAT活動については、徐々に地元倉敷市等への引継ぎ等の準備を進めていくことを確認、県外DWATは8月21日(火)までとし、以降は岡山DWATで対応していく方向で調整を進めていくことを確認する。

Point

16



岡山DWATの派遣職員〔第2期〕募集要項



【目 的】 西日本を中心とした豪雨災害(平成30年7月豪雨)によって地域住民が避難されている一般避難所において、県内の福祉専門職(社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、保育士等)、社会福祉施設等の介護従事者等を派遣し、福祉的支援が必要な要配慮者(高齢者、障がい者、子ども等)への支援活動を行う。

【活動期間】 平成30年8月13日(月)から9月 2日(日)のうち5日間

【活動場所】 一般避難所 岡田小学校・菌小学校・二万小学校

【募集職員】 ・災害派遣チーム(DWAT)員の活動メンバーとして推薦いただいている職員
・相談支援業務に携わっている職員、・災害福祉支援の経験のある職員等

【活動方法】 1クール5日間、4～6名程度で編成、初日と最終日に前後チームと引継ぎ

【活動方針・予定】

第2期DWAT活動として、緊急期や応急期初期の支援活動は終了し、現在は避難期間の長期化による、要配慮者の悪化防止に力をそそいでいく段階となる。よって、アセスメント等の支援が減少し、なんでも相談による傾聴対応やつどいの場(ふれあいサロン活動)の場の提供を通じた介護予防教室や軽体操の実施等によるストレス解消を主体に活動されている。あわせて、支援終了・DWATの撤収を見据え、地元支援者への引継ぎを想定したアセスメントシート、対応記録等の情報整理を進め、地元への橋渡しを行う時期になる。

【保険による補償について】

各法人・施設からの派遣(出張扱い)の場合は、通常の労災等の適用でお願いいたします。



西日本豪雨災害における支援経緯(応急期②)



〔8月6日(月)〕／発災5週目・・・今後の活動引継ぎに向けて、倉敷市社協と初めての連携

・倉敷市社協松岡氏と岡山DWATが取り組んできた避難所におけるつどいの場(ふれあいサロン活動)の引継ぎに向けた意見交換を行う。8月まではDWATで活動継続し、その後倉敷市社協へ引き継ぐことを前提に、岡田・菌小学校避難所責任者に対し、つどいの場(ふれあいサロン活動)の必要性和場所の提供について要請を行うことを確認する。

・岡田小学校において、住まいのアンケートの実施を受けて、なんでも相談コーナーに不安や苦情を訴える避難者が増加、しっかり傾聴していくことで避難者自身の気持ちの整理を支援する。

・備中保健所で開催していた「県南西部災害保健医療活動調整会議」が医療関係者の撤収等に伴い終結を迎え、今後は倉敷市保健所を会場に保健師を中心とした各避難所の活動報告を行っている「倉敷市災害保健医療ネットワーク(KuraDRON)」に岡山DWAT・JRAT・AMDA等各団体が参画。



西日本豪雨災害における支援経緯(応急期②)



[8月13日(月)]／発災6週目・・・今後の生活再建・学校再開に向けた動きが加速

・8月上旬、小学校避難者を対象に「住まいに関する状況調査」が実施される。これは、9月からの学校再開に向けた現状把握の意味合いでもあり、みなし仮設や仮設住宅等への転居状況を把握し、校舎内の被災者を体育館に集約していくことをねらいとしている。

・8月10日、倉敷市内に設置される仮設住宅の当選発表があり、なんでも相談コーナーの相談が増加。DWATとしては、引き続き傾聴の姿勢で、相談支援に対応。

・県外DWATは、岩手(2クール)・静岡(3クール)・群馬(2クール)・京都(6クール)・青森(2クール)が派遣され、8月21日の青森チームをもって県外応援派遣は終了。

・発災から1カ月が過ぎ、岡山DWATとしての収束期に入ったことを踏まえ、避難所内の要配慮者については、再度状況把握を行い、見守りから福祉関係機関等へのつなぎを意識した支援に移行中。

・今後、要配慮者のなかには、みなし仮設住宅等へ転居していく予定の方もおられることから、本人(家族)の了承を得て、地元福祉関係機関への引継ぎや保健師への情報提供を積極的に行っている。

19



西日本豪雨災害における支援経緯(活動移行期)



[8月19日(日)]／発災7週目・・・学校再開に向けた校舎内被災者の体育館集約

・8月上旬から調整を行ってきた住まいのアンケートを踏まえ、9月からの学校再開に向け、校舎内の被災者の体育館への集約が行われるとともに、校舎内の清掃活動が行われる。

・倉敷市社協や地元団体・NGO主催で、各小学校を会場に、夏祭り等のイベントを開催、束の間の息抜きや子どもたちの笑顔、交流の場が見られる。

・学校再開に向け、DWATや保健師チームが常駐していた現地本部のスペースもいつまで利用できるのか不透明、被災者だけではなく、支援者の居場所も含め、徐々に縮小に向けた動きが加速。

・DWATでは、みなし仮設住宅や福祉施設等の利用につながった利用者、今まで継続して支援してきた要配慮者ひとりひとりの情報提供書(仮)を作成、本人(家族)の了承を得て、地元福祉関係機関への引継ぎを確実に行うとともに、体育館内の配慮を必要とする方を極力少なくするよう積極的な関わりを展開する。

20



西日本豪雨災害における支援経緯(活動移行期)



[8月27日(月)]／発災8週目・・・学校再開に向けた校舎内被災者の体育館集約

・今週で小学校運動場で行っていた炊き出し終了。テントも撤収予定。

・つどいの場(ふれあいサロン活動)の継続実施に向け、倉敷市社協と協議を行いながら、サロンの開催場所(体育館・コンテナハウス・公民館分館)の検討協議を継続。はっきりとした場所は確保できないが、つどいの場の目的・ねらいを説明していきながら、継続していくことを現地Coと確認する。

・27日(月)、DWAT第3回緊急会議を開催、DWAT員を派遣していただいた県内の6種別協・3職能団体に対し、今までのDWAT活動の報告を行うとともに、現状ならびに今後の支援見通しを説明、9月からつどいの場(ふれあいサロン活動)の活動展開に向け、協力を呼びかける。

・現地Coと協議し、つどいの場の運営に向けて、最終的な調整を進める。

・県内6種別協・3職能団体に対し、つどいの場(ふれあいサロン活動)の職員派遣要請。

21



岡山DWATの今後の取組



・岡山DWATでは、小学校に避難している被災者を対象に、保健師やJRAT等と連携して、避難生活の長期化に伴う体調の悪化防止や介護予防の取組を実施してきた。

県内DWAT派遣数 13クール(39チーム) 262名

県外DWAT派遣数 15チーム 66名 計328名

・すでに発災から1ヶ月以上が過ぎ、被災者の中には、みなし仮設住宅への転居や生活再建に向けた復旧・復興に向けた動きがみられるなか、9月からの小学校再開に伴う体育館への被災者の集約や県外保健師、JRAT、DWAT等の撤収に伴う支援関係団体の減少を踏まえ、今後は、地元倉敷市を主体とした見守り・相談支援体制に移行する段階に入っている。

・岡山県・倉敷市においては、被災者見守り・相談支援体制の構築(*)を進めているが、現段階では10月にならないと立ち上がらない状況となっている。

・岡山DWATとしては、9月2日(日)をもって常駐派遣を終結したが、今後、被災者見守り・相談支援体制が構築できるまでの期間、岡山県内の社会福祉法人・施設関係者、職能団体の協力のもと、岡山DWATで取り組んできた「つどいの場(ふれあいサロン活動)」を9月末まで展開した。

22



DWAT活動の成果と課題



〔成果・評価〕

- ①被災地において福祉分野の活動が求められていることがわかった
- ②岡山県内の関係者が避難所に常駐したことで、被災者からの信頼感が高かった
- ③DWATの一員として、被災地において実際に活動展開したことで、隊員一人ひとりのスキルやノウハウが蓄積できた
- ④岩手県や京都府等をはじめ、先進的に取り組んでいる県外DWATの応援・支援をいただきながら、発災当初から具体的な活動を展開したことで、緊急期・応急期・活動移行期等のニーズや環境変化を実体験することができた
- ⑤他都府県から派遣されてきた保健師やDMAT、JRAT、NPO関係団体等にDWAT活動が認知されたことにより、医療・保健分野からの信頼感が高まった
- ⑥他都府県においても、DWATの組成や構築の期待・要望が高まった

〔課題〕

- ①今回の取組を踏まえ、岡山県として精度の高いDWATの構築を進めていく
- ②県外DWATを受け入れる体制、受援体制の構築や体制・準備を整えていく
- ③派遣事務局としての体制を整備しておく

23



さいごに



・DWAT活動並びにつどいの場の活動支援については、岡山県社会福祉協議会をプラットフォームに、災害福祉支援（要配慮者支援）という課題に対して、県下の経営協・老施協・障施協・保護協等の種別協議会、社会福祉士会や介護福祉士会、介護支援専門員協会・精神保健福祉士協会等の職能団体、病院や医療ソーシャルワーカー協会、福祉・医療関係機関・団体からの職員派遣・応援派遣があったからこそ実現できた活動でした。

・この活動は、高齢・障害・児童といった分野や組織の壁を越え、災害福祉支援という共通課題に対して、福祉・医療関係者が横の連携で対応したモデル事例のひとつになったといえます。

ご協力いただきましたすべての関係者に心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

・被災地では、今現在も避難所や仮設住宅、みなし仮設住宅で生活されている方々が多数います。今後も地元倉敷市を中心とした見守り・相談支援体制において、福祉・医療関係者の参画は必要となりますので、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

24